

都道府県別 健康寿命等の状況（平成 17 年度平均）

女性	平均寿命		健康寿命		要介護期間	
	順位		順位		順位	
	No.1	86.50	No.1	82.00	No.1	4年6か月
「健康長寿日本一 わかやま」(案)	1.23歳の延長		3.55歳の延長		2年4か月の短縮	
長野県	1	86.19	2	80.71	14	5年6か月
島根県	2	86.13	25	79.71	34	6年6か月
岡山県	3	86.11	28	79.59	38	6年7か月
滋賀県	4	85.99	5	80.52	13	5年6か月
新潟県	5	85.97	7	80.47	15	5年6か月
熊本県	6	85.96	22	79.83	28	6年2か月
富山県	7	85.95	21	79.84	27	6年2か月
福井県	8	85.92	4	80.61	7	5年4か月
鳥取県	9	85.90	12	80.18	19	5年9か月
静岡県	10	85.88	6	80.50	10	5年5か月
石川県	11	85.85	15	80.04	21	5年10か月
大分県	12	85.83	38	79.10	42	6年9か月
奈良県	13	85.81	32	79.39	35	6年6か月
山梨県	14	85.80	1	80.85	2	5年0か月
沖縄県	15	85.77	31	79.41	33	6年5か月
山形県	16	85.77	8	80.37	11	5年5か月
広島県	17	85.77	37	79.12	40	6年8か月
宮城県	18	85.74	17	79.98	20	5年10か月
宮崎県	19	85.72	16	80.02	18	5年9か月
京都府	20	85.70	30	79.47	30	6年3か月
神奈川県	21	85.66	24	79.72	24	6年0か月
佐賀県	22	85.65	33	79.37	31	6年4か月
香川県	23	85.61	26	79.67	25	6年0か月
三重県	24	85.61	36	79.33	32	6年4か月
岐阜県	25	85.55	10	80.19	8	5年5か月
岩手県	26	85.55	23	79.72	22	5年10か月
東京都	27	85.53	35	79.34	29	6年3か月
兵庫県	28	85.51	39	79.06	37	6年6か月
千葉県	29	85.51	9	80.25	5	5年4か月
愛媛県	30	85.49	40	79.05	36	6年6か月
高知県	31	85.49	20	79.84	17	5年8か月
長崎県	32	85.47	43	78.53	45	7年0か月
福岡県	33	85.47	42	78.80	41	6年9か月
徳島県	34	85.44	44	78.52	44	7年0か月
山口県	35	85.43	29	79.53	23	5年11か月
愛知県	36	85.43	19	79.88	16	5年7か月
福島県	37	85.40	11	80.19	4	5年3か月
群馬県	38	85.39	18	79.96	12	5年6か月
秋田県	39	85.39	46	78.45	46	7年0か月
北海道	40	85.39	34	79.37	26	6年1か月
埼玉県	41	85.36	14	80.08	6	5年4か月
鹿児島県	42	85.36	41	78.83	39	6年7か月
和歌山県	43	85.27	45	78.45	43	6年10か月
茨城県	44	85.27	3	80.63	1	4年8か月
栃木県	45	85.16	13	80.16	3	5年0か月
大阪府	46	85.13	47	78.04	47	7年2か月
青森県	47	84.99	27	79.62	9	5年5か月

和歌山県民は以外と短命!?

平均寿命も健康寿命もなぜ短い?

浦口県議、知事・福祉保健部長・教育長に質問

平成24年9月議会一般質問要旨

(9月24日詳しくは、和歌山県議会HP)

浦口議員 議長のお許しを頂きましたので、通告に従い質問させて頂きますが、その前にご報告を申し上げます。

去る7月29日、8月4日、5日の3日間に渡り、開催されました「第九回紀州よさこい祭り」におきましては、盛会裡に終えることができました。この祭りは今から10年余り前に、2人の若者が「おどりを通じて和歌山を元気にしたい!」という思いで立ち上げた祭りです。私も当初から開催に向けて尽力させて頂きました。それが今では、和歌山を代表する祭りのひとつになったことは、大へん喜ばしいことであり、今回も知事をはじめ、県職員の皆さんのご支援ご協力を頂いたことに、心より厚く御礼申し上げます。この2月議会において、わが民主党所属の三代議士の活躍ぶりと野田内閣に対する評価を、知事をはじめ関係部長に質したところ「多大な評価」とまでは言いきませんが、それ「相応しい評価」を頂いたことに民の評価と和歌山県連幹事長として、厚く御礼申し上げます。

ここにおられる議員の皆さんも！」「とか「私が、和歌山を元気に！」といったようなキャッチフレーズを色々とところで発信されたいと思います。それは、逆に言えば和歌山は元気がないということであり、またかというイメージがこちらに目を向けがちですが、和歌山県民自体に元気が足りない！この表から言えるのではないでしょう

か？

後ほど述べますが小学生から中・高校生までの体力のなさは、ハッキリ言ってもまだまだこれから先、和歌山県の活力をしばせてしまふ可能性があるので私は懸念しております。

そのようなときに仁坂知事は、平成20年4月に出した「未来に羽ばたく元気な和歌山」ここに元氣という言葉が用いられていますが、「和歌山県長期総合計画」の健康づくりの推進の項において、「健康長寿日本一わかやま」を目指しますと二度強調されています。これは大へんすばらしいことで、他の項目においても例えば農林や県土整備また知事がいつも力説されている観光や企業誘致においても「日本一」全く載っていない文章は、全く載っていません。それだけに仁坂知事の、並々ならぬ決意をこの文章から感じるものができました。

皆さん「日本一」の健康長寿県にするのですよ、この和歌山県を。私は本当にこれはすばらしい目標だと思います。

そこで大へん憎いです。が、マニフェストではありますが「言葉だけでなく真に『健康長寿日本一わかやま』を実現するための目標設定をさせて頂きました」。男性では平均寿命を80才、要介護期間を2年に決定すると健康寿命が78才となります。平均寿命も健康寿命も最長であると同時に、要介護期間を出るだ

け短くしなければ日本一とは言えない。

女性においては、平均寿命1位の86・5才と設定し、要介護期間の短さが4年6ヶ月に設定すると、健康寿命は82才となります。

男女ともいずれも、達成不可能な数字ではないと思いますが、これらの数字を踏まえて、知事の「健康長寿日本一わかやま」にかけろご決意、意気込みをお聞かせください。

そのためには、ご指摘のように平均寿命や健康寿命の延伸、介護を要する期間の短縮等が、「健康長寿日本一わかやま」という目標を実現していく上で、大きな課題であると考えています。しかし、現状はご指摘のとおり目標には、まだまだ遠い状況です。

しかし、この目標に向かって、強い意志を持って頑張り続けなければならないというふうに思っています。長計ではそのために施策をいろいろ示しています。県民参加型の健康増進、健康いざがん対策、心の健康づくり、感染症対策、健康危機管理、難病対策等。これから、更に力を入れて頑張ってください。「健康長寿日本一わかやま」をめざして関係部局が一致団結して取り組んでいきたいと考えています。

浦田議員 余談ですが、私は「日本一」という言葉に大へんな思い入れがあります。それは、多感な学生時代を東京で暮らしていたとき、ちっぽけな自分の存在そのものを見失しないがちに何度もなりました。これではいかんと思ひ、ふと頭に浮かんだのは、自分の得意な分野で、「日本一」になるという目標を定め、日本拳法の厳しい鍛錬に日々励みました。その結果、「日本一」になることができました。

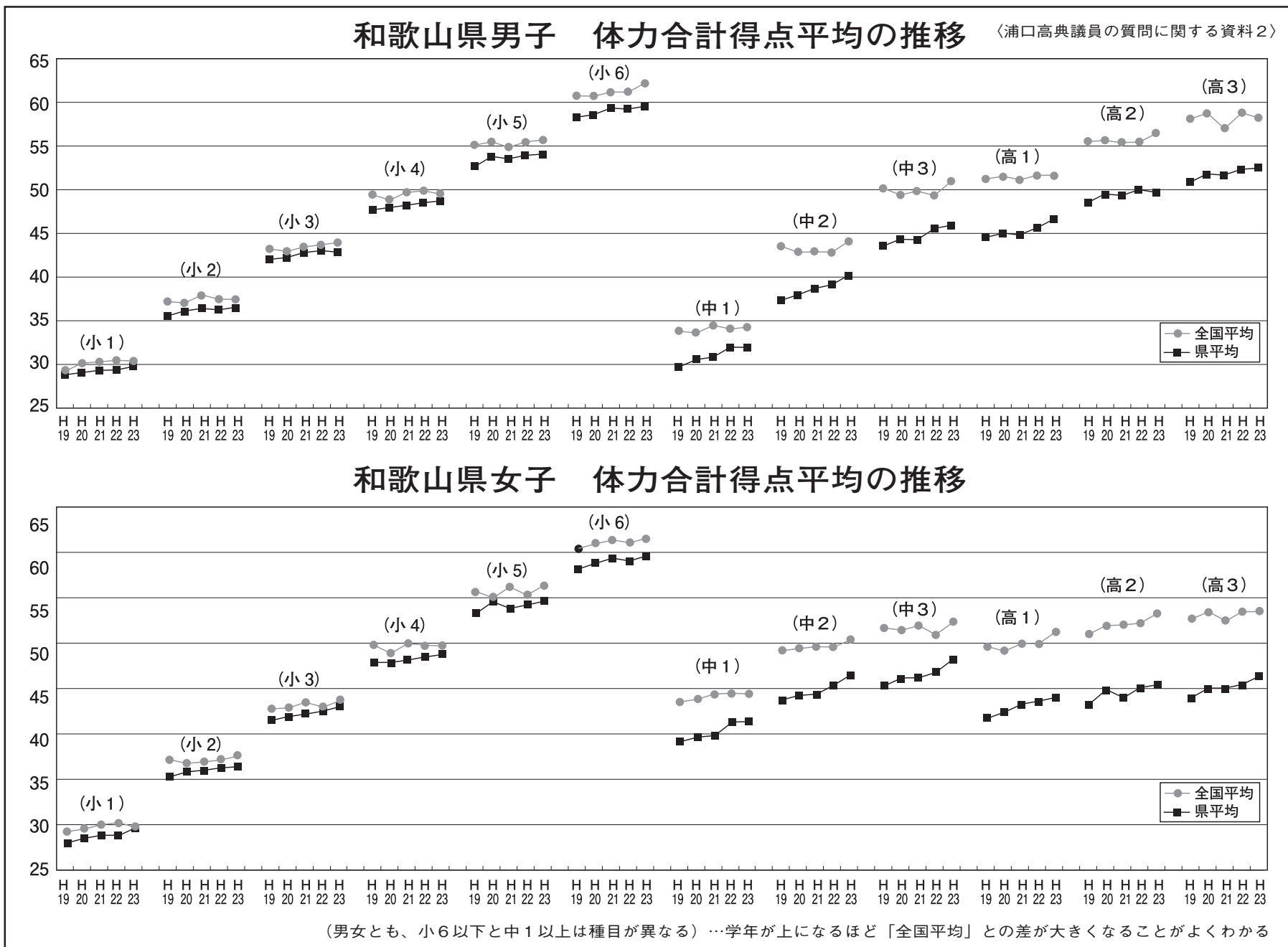
そこでは当然のことですが、決意だけではなく実践が伴わなければなりません。猛練習の日々に数をこなすことによって質を高めます。心技体の向上をはかり、他から抜き出た強い幼いを創る。誠に私自身の幼い経験で恐縮ですが、この経験から言うと、他府県と同じ政策を進めていても、とても知事がいう「健康長寿日本一わかやま」には到底達成することができないことは明らかであります。どうぞその強いご決意のもと、県民の皆さんをリードし、「健康長寿日本一わかやま」を実現して頂きたいと存じます。

②和歌山県はなぜ平均・健康寿命が短く、長野県は長いのか
今度は福祉保健部長におたずね致しますが、この表で同じ日本国でありながら、何度も申し上げますとおり、和歌山県は平均寿命も健康寿命も短いのに、長野県は何故その両方とも長いのでしょうか、ご所見をお聞かせください。

山本福祉保健部長
平均寿命、健康寿命を左右する要因については様々なものがあり、断定的ではありませんが、長野県はがんによる死亡率が全国一低いことが平均寿命を長くしている主要な原因であると考えます。

また、健康寿命も長くつていますが、これは高齢者の就業率が全国一高いことや在宅の高齢者を家族が支える環境が比較的温存されていることなどが影響して、要介護認定率が低くなっているためであると考えます。

③和歌山県と茨城県の健康寿命の差はなぜか
浦田議員 実は10月3日から5日までの3日間、私が委員長を務めております「福祉環境委員会」の視察



この見事な過程、学年が上がるごとに、全国平均より著しく体力が劣るといふことについて、教育長はどのように思われますか。

西下教育長 児童生徒の体力の現状は、議員ご指摘のとおり、大変厳しい状況であり、このことは、ひいては将来の子の体力向上支援委員会を設立し、各学校において体育授業の工夫改善をもとに、部活動等とあらゆる場面を通じて、学校体育の充実に取り組んでまいりたい。その結果、体力は、どの校種においても徐々に向上し、ある程度向上する傾向にあると思います。

子どもたちにとって運動やスポーツは、生涯にわたってたくましく生き抜くための健康や体力の基礎を培うとともに、心と体の健全な発達や成長、より豊かな生活を送るうえで極めて重要なものと受け止めています。

県教育委員会にいたします。今後とも、本県の子どもたちの体力向上に向けて、創意工夫をこらした様々な施策を展開し、より一層取組を強化してまいります。

②総合型地域スポーツクラブづくりの体力づくり

浦口議員 それから、高校校

中の2クラブと合わせ55クラブで、約7,000人の方々が活動しております。

最近では、「フリスタンスやジャズダンスなどの流行を汲みこんでのはじめ、ヨガやウォーキングなど、健康づくりを志向した教室など」が人気を集めています。

しかしながら、教室への参加にしている、個々人の意識に差があるところを大きくこのころ、いかにして、スポーツに興味、関心のない人の意欲を喚起するかというところが鍵となっておりま

す。

そうしたところ、県内各クラブが中心となり、スポーツ交流会など地域域住民を対象としたイベントを開催し、健康の保持増進に対する啓発や、ユーススポーツの体験教室を実施するなど、気軽にスポーツに親しみ、きっかけづくりを行い、スポーツ人口の裾野の拡大に取り組んでいます。

県教育委員会といたしましては、健康は個人の財産のみならず、地域全体の財産を維持・発展させる重要な要素であると認識しております。引き続き、市町村から教育委員会と連携を密にし、スポーツ推進委員などの協働も得ながら、総合型地域スポーツクラブによる体力測定会の実施を支援するなど、県民の健康づくりと体力向上に努めてまいります。

③第二次和歌山県健康増進計画のその後と今後は浦口議員 総合型地域スポーツクラブの今後、地域における役割にも大々期待しておりますが、まだ人

動・運動 C 休養・こころの健康 D たばこ E アルコール F 歯の健康 G 循環器疾患 H 脳卒中・虚血性心疾患 I 糖尿病 J その他

活動・運動に「よく」関与している人の割合は、平成17年の調査では、成人の運動習慣のある割合は男性：23％（全国平均が30％）、女性：22・6％（全国平均25・8％）で、いずれも全人口に比べて低率でした。また、「分野別指標の評価」では、身体活動の判定不能、順調に改善は目が見えよ改善、5項目が目唯一、79才以上の女性が目標としているという項目が上歩いでいた。もちろんこれは平成20年までのデータですが、その後の状況と評価について福祉保健部長お答え下さい。

山本福祉保健部長

第二次健康増進計画における身体活動・運動分野の指標の現状については、現在直近のデータの分析中ですが、目標数値に対しては引き続き、引き続き、国体開催という機会を捉えて、県民の間に広く健康志向を高め、ウォーキングやジョギングなど、日常の運動習慣が根付くよう、市町村と連携のもと取り組んで参ります。

っている通り和歌山県は、他府県に先んじて、これから本格的な人口減少がおこり、全国2位の超高齢県になってしまおうと言われております。

つまり、解りやすく言うんですが、人口はゴツと減りますが、老人たちが要介護になる率がグンッと高い和歌山県は、このままだと、間違いなく活力も元氣もない県になってしまふことはいやに想像できます。ちなみに、これは決して他人事ではありません。私はちょうど昭和30年（1955年）生まれてから平成47年（2005年）寿命と和歌山県の男性の平均年齢を上のように80才になり、超高齢、人口激減社会は私自身の問題でもあるわけですので、今後やるに施策により、どのような和歌山県になっているか、是非、悔いのないようにしっかりと見届けたいと今から決意しております。

本題に戻りますが、そこでは、介護予防対策として、平成16年より和歌山大学教授で体育学博士の本山貢氏に依頼し、「シニアエクササイズ」を導入し、介護からならぬための足腰の強化を中心に、積極的にこのエクササイズを進めていることは、大へん素晴らしいことだと、評価しております。

このように全県的に介護

姿は、なかなか微笑ましいものがあり、介護に出るだけ頼らず自立していることとしている姿勢に感動を覚えた。

しかしながら、「自主運営」ということは、言葉は大へん結構ですが、参加者が大きく広がらないことや、会場の確保にも苦勞しているということをお聞きしました。

先ほどから申上げているように和歌山県民の体力不足は、何と老人だけの問題だけではないとは重々承知しておりますが、喫緊の対策として、是非このシニアエクスサイズをもっと広く一般の県民の皆さんにも知ってもらうために、積極的に県も力を入れるべきではないでしょうか。この運営を管理するのは各市町村ですが、是非とも県も更に力を入れ広報し、指導者を各地にもっと多くつくり、一人でも多くの県民の皆さんに参加してもらうべきだと思います。そこで、現在までの効果と今後の県の取り組みについて、福祉保健部長にお答えください。

山本福祉保健部長
シニアエクスサイズについては、高齢化に伴う身体力の衰えを軽減するものであり、「要介護認定の抑制」という効果に加えて、地域の高齢者が集まって一緒に交流し、地域でつながりを強くするという、「仲間づ

彰について

浦口議員 和歌山県は急速な高齢化が進み、その高齢者が介護保険や医療保険を、皆が皆とは申しませんが、当然のようにそれに安易に頼るとなれば、国会において「税と社会保障の一体改革」で議論されたようにいくら消費税を上げてても財政がもたないことは、火を見てもより明らかであります。そこで、当たり前のことで、一人一人が健康について、日常生活において気をつけ、出来るだけ介護や医療のお世話にならないような仕組みをつくることは、今後非常に大事なことでないでしょうか。

そこで、ただ長寿ということだけでなく、健康で介護保険や医療保険を使わ



における産業や文化、スポーツ活動、社会貢献などの担い手として、第一線で活躍されている方々をたたえることを検討し、広く県民の健康意識などの高揚につなげていければと考えています。

③ これからの「健康長寿日本一わかやま」への道筋

浦口議員 これは今後の課題です。しっかりと考えていきたいと思います。この月に前回平成22年の国勢調査の結果が出て、それに合わせてまた平均寿命と健康寿命の集計も出るようで、恐らく先ほど紹介したシニアエクスサイズや総合型地域スポーツクラブの取り組み等もあり、決して平成17年以下にはならないと期待しております。

しかし、我々の目標はあくまでも知事の強い決意にもあった「健康長寿日本一わかやま」であります。「日



浦口議員 なかなか道筋は
みえにくいですね。「健康
長寿日本」わかやまとい
うことで、恐らく全ての県
民が望んでであろう健康で長
生きできる和歌山づくりで
して、色々と議論させて
頂きました。

特に今回も、その中で体
力づくりということに焦点
をあて、知事はじめ福祉保
健部長、教育長の前向きな
答弁を頂き、大へん嬉しく
思っております。しかし、
これは言葉だけで実践が伴
わなければ何の進歩もない
ことは言うまでもございま
せん。特に今後健康寿命の
短さについても県はもった
と大々的に広報し、県民の皆
その意識を喚起して頂き、
それこそ「健康長寿日本」
わかやま」づくりのための
県民運動をおこしていくぐ
るの覚悟で取り組んで頂
くことを心より願って質問
を終わらせて頂きます。あ
りがとうございました。



民主党政権は、是か非か!?

和歌山県総支部連合会幹事長として質問

平成24年2月議会一般質問要旨(3月5日詳しくは、和歌山県議会HP)



浦口議員 昨年3月11日に起こった東日本大震災では、日本国内だけではなく、世界中に大きな衝撃が走り、私も昨年7月に、改新クラブのメンバーとともに岩手県の宮古市から宮城県気仙沼市まで三陸海岸を南下し、その沿線の被害の状況をつぶさに見て回りました。特に津波の恐ろしさをまざまざと肌で感じました。

そこで、今後30年以内に60%から70%の確率で発生するという東南海・南海地震対策、特に和歌山・下津波津波防波堤についてお聞きしたいと存じます。

国では、衆議院災害対策特別委員会、岸本代議士が今後、大変な復旧の事業費がかかることが予想されるので、まずは激甚災害への対応をお願いしたいと強く迫ると、「あらゆる措置を投入する必要がある」と力強い回答をいただきました。

また、その後、仁坂知事とともに首相官邸や各省庁を訪れ、迅速な予算措置を含む国の支援をお願いに回りました。

その結果、本来なら1カ月以上かかるという激甚災害の指定をわずか16日で受けることができました。さらに、第3次補正予算には、台風12号対策等320.2億円が計上されたことは、政権政党である民主党のスピード感と力強さを本当に感じた次第であります。

今回、陣頭指揮に立たれて復旧に当たられた仁坂知事のリーダーシップに対しては、心から敬意を表する次第です。

浦口議員 今回私は、改新クラブの一員であると同時に、民主党和歌山県連所属の議員として質問いたしますことをまず御認識いただきたいと存じます。

マスコミ等を通じて、民主党は政権交代時に約束したマニフェストを何ひとつ守っていないというような論調のコメントがよく聞かれます。果たしてそうでしょうか。

私は、平成15年初当選の県議員1期目に、このマニフェストの地方版と言えるローカル・マニフェスト推進地方議員連盟の共同代表を務め、私なりに勉強してまいりました。

昨年、政権交代から丸2年がたった時点で民主党マニフェスト検証委員会のマニフェストの中間検証によりまして、高校授業料無償化、農業の戸別所得補償制度の創設、行政刷新会議による事業仕分け、10年ぶりの診療報酬プラス改定、生活保護母子加算の復活と父子家庭への児童扶養手当

森県土整備部長 これらの路線については、現在、鋭意用地取得や工事の進捗が図られているところでございますが、今後は未買収用地の取得や長大トンネル、橋梁などの大規模工事の実施など、これまでにも増して重要な局面を迎えることとなります。

このため、これらの計画的な事業展開に必要な予算の確保はもとより、難航している用地の取得や工事に係る地元調整など、円滑な事業の実施に県として最大限の協力し、平成27年度体制までに供用していただくよう、国や関係機関に対して強く働きかけてまいります。

また、公共インフラ整備についてであります。現在、民主党政権になって大変驚いたのは、有田一御坊間の高速道路4車線化凍結というところでありまして、しかし、その後、和歌山県選出民主党の3代議士の政府民主党に対する強力な働きかけもあり、第二阪和国道和歌山山脚道深目ランプから大谷山脚道までま



浦口議員 台風の12号関連のことについてお伺いいたします。

被災直後、民主党和歌山県連では、台風12号災害対策本部を立ち上げ、対応に速やかに当たりました。那智勝浦町に野田総理を迎え、現場を視察していた仁坂知事、寺本那智勝浦町長、田岡新宮市長と、早急な対策を講じてくれるよう直接訴えいたしました。

国では、衆議院災害対策特別委員会、岸本代議士が今後、大変な復旧の事業費がかかることが予想されるので、まずは激甚災害への対応をお願いしたいと強く迫ると、「あらゆる措置を投入する必要がある」と力強い回答をいただきました。

また、その後、仁坂知事とともに首相官邸や各省庁を訪れ、迅速な予算措置を含む国の支援をお願いに回りました。

その結果、本来なら1カ月以上かかるという激甚災害の指定をわずか16日で受けることができました。さらに、第3次補正予算には、台風12号対策等320.2億円が計上されたことは、政権政党である民主党のスピード感と力強さを本当に感じた次第であります。

今回、陣頭指揮に立たれて復旧に当たられた仁坂知事のリーダーシップに対しては、心から敬意を表する次第です。

浦口議員 続いて、「新しい公共」について伺います。

民主党は、平成21年8月の総選挙のマニフェストにおいて、市民が公益を担う社会を実現すると訴え、特定非営利活動法人初め非営利セクター、NPOセクターの活動を支援すると、具体策として認定NPO法人制度を見直し、寄附税制を大幅に拡充するとともに、認定手続の簡素化、審査期間の短縮などを訴えてまいりましたが、昨年6月に特定非営利活動促進法の一部を改正する法律を成立させました。これは、初めに申し上げましたとおり、100%マニフェストを守ったわけでありまして、

この見直しにより、認定NPO法人や学校法人、社会福祉法人などの寄附金の2分の1を税金から差し引くことが可能になりました。これと和歌山県のNPOや介護などの現場にもお金が回り、地域の活性化に役に立つことが期待されております。この法律をつくるため、議員連盟の事務局次長として法案の趣旨説明役などを、一手に取り切ったのが、和歌山1区選出の

浦口議員 最後に仁坂知事にお伺いしたいと存じます。

本日、私が申し上げたとおり、和歌山県選出の3代議士は、それぞれの立場で地道にそれぞれの地域並びに和歌山県発展のために頑張っていると思います。今まで鳩山、菅政権と2代にわたる、民主党政権には知事は余りいい印象をお持ちでなかったと存じますが、この3代議士の仕事ぶりが

浦口議員 台風の12号関連のことについてお伺いいたします。

被災直後、民主党和歌山県連では、台風12号災害対策本部を立ち上げ、対応に速やかに当たりました。那智勝浦町に野田総理を迎え、現場を視察していた仁坂知事、寺本那智勝浦町長、田岡新宮市長と、早急な対策を講じてくれるよう直接訴えいたしました。

国では、衆議院災害対策特別委員会、岸本代議士が今後、大変な復旧の事業費がかかることが予想されるので、まずは激甚災害への対応をお願いしたいと強く迫ると、「あらゆる措置を投入する必要がある」と力強い回答をいただきました。

また、その後、仁坂知事とともに首相官邸や各省庁を訪れ、迅速な予算措置を含む国の支援をお願いに回りました。

その結果、本来なら1カ月以上かかるという激甚災害の指定をわずか16日で受けることができました。さらに、第3次補正予算には、台風12号対策等320.2億円が計上されたことは、政権政党である民主党のスピード感と力強さを本当に感じた次第であります。

今回、陣頭指揮に立たれて復旧に当たられた仁坂知事のリーダーシップに対しては、心から敬意を表する次第です。

浦口議員 続いて、「新しい公共」について伺います。

民主党は、平成21年8月の総選挙のマニフェストにおいて、市民が公益を担う社会を実現すると訴え、特定非営利活動法人初め非営利セクター、NPOセクターの活動を支援すると、具体策として認定NPO法人制度を見直し、寄附税制を大幅に拡充するとともに、認定手続の簡素化、審査期間の短縮などを訴えてまいりましたが、昨年6月に特定非営利活動促進法の一部を改正する法律を成立させました。これは、初めに申し上げましたとおり、100%マニフェストを守ったわけでありまして、

この見直しにより、認定NPO法人や学校法人、社会福祉法人などの寄附金の2分の1を税金から差し引くことが可能になりました。これと和歌山県のNPOや介護などの現場にもお金が回り、地域の活性化に役に立つことが期待されております。この法律をつくるため、議員連盟の事務局次長として法案の趣旨説明役などを、一手に取り切ったのが、和歌山1区選出の

浦口議員 最後に仁坂知事にお伺いしたいと存じます。

本日、私が申し上げたとおり、和歌山県選出の3代議士は、それぞれの立場で地道にそれぞれの地域並びに和歌山県発展のために頑張っていると思います。今まで鳩山、菅政権と2代にわたる、民主党政権には知事は余りいい印象をお持ちでなかったと存じますが、この3代議士の仕事ぶりが



仁坂知事

まず、台風12号被害からの復旧に当たりましては、自衛隊や国交省など、政府には迅速な対応をいただいたと評価しております。当時の平野防衛大臣その指揮下にあった内閣府の方々の働きは、私は尊敬に値すると考えております。ただ、それは政府なら、ある意味では職責上当たり前の話だと思えます。

浦口議員が農地の20度問題についてお話しになりました。これは、法律の運用上からすると非常に非論理的な話であって、それを正すというのは、当然の権利でございます。

ただ、農水省は根本的に直さないで、ちよと直すからいいじゃないかというようなことをさんざん言っておられました。それが当然論理ならばしょうがないけれども、非論理的なんですから、それを要求するのは当たり前でございます。

ところが、すぐに政府が言われたことを納得してしまふ向きがあるわけでございまして。田辺市の説明会において、少しやるからいいじゃないかという説明を、そこにいらした方々から、ああそうですかとあって納得して帰してしまふものではないかと、私も思っています。それは私が主張していることを引きつるものであり、県ではこの機会を最大限に活用すべく、平成23年度より国の交付金をもとに造成した基金を財源とする新しい公共支援事業において、認定NPO法人制度の利用促進を含めたNPO等の活動基盤の整備を進めているところであります。

今後県が行政としての役割を果たしつつ、県民の皆様と切磋琢磨しながら地域課題の解決に当たる仕組みづくりを目指して、NPO等の自主自立した活動の活性化や協働の推進に取り組んでまいります。

